



# 第12回まちづくり推進会議

日時：令和5年11月15日（水）19:00～20:55 場所：公民館多目的ホール  
出席者：委員15名 事務局4名

## 会議の内容

### ◆第12回まちづくり推進会議の議題(協議テーマ)

今回のまちづくり推進会議では、以下のテーマに基づいて、まちや地域がより良く変わるために必要な課題を広く探ることを目的として、3グループに分かれ、活発な意見交換を行いました。

#### 【協議のテーマ】

○まちの課題について～よそ者・若者・ばか者が地域を変える～

その主な意見を一部抜粋してご紹介します。

### ◆ディスカッション内容に伴う主な意見等

#### ◆Aグループ

##### ○足りていないこと

###### (1) 買い物や人が集まれる場所

- ・ドラッグストア、喫茶店やパン屋などのお店が町内にあれば良い。

###### (2) 働く場所

- ・働く場所、働ける場所がないと若い人の流入は考えられない。

##### ○起業者・その支援

###### (1) 起業者

- ・起業したいという人は意外と多くいる。(商工会にも問い合わせがある)
- ・訓子府町は店舗出店の補助があるため、初期資金があまりなくても起業できるというのが強み。
- ・何か新しいことにチャレンジしてみたいと言った大雑把な括りでも、そういった人が来てくれば町の雰囲気が変わるのではないかな。

###### (2) 起業者への支援について

- ・起業したい人を応援する人、サポートする仕組みがあると良いと思う。
- ・役場などに直接相談しにくいこともあるだろうし、ちょっとした相談をしたいときに気軽に相談できる仕組みにすると良いと思う。
- ・HPに起業したい人に向けたQ&Aみたいなのを設けると良いと思う。
- ・開業するための基盤作りに関する補助があると新しく仕事を始める人が増えるのでは。
- ・起業者に問わず、何かチャレンジしたいと動いている人の邪魔をするのではなく、失敗してもフォローしてあげられるような大らかな雰囲気を作り出すことが重要だと思う。

##### ○地域のキーパーソン

###### (1) お祭りの継続

- ・これからもお祭り等のイベントが続いてほしいと思うので、盛り上げてくれる人が誰か一人でもいれば良いと思う。

###### (2) サークル・クラブ活動について

- ・百歳体操やその他のサークル活動では、高齢化が進んでどんどん人が減っている。そのためもっと仲間を増やしたいと思っている。
- ・そういった活動には、70代、80代の参加者が多く、60代の方は働いているからかほとんどいない。やはりもう少し若い人にも参加してほしい。後継者がほしい。

##### ○困っていること

###### (1) 子どもの送迎

- ・子どもの習い事などで何かある度、送迎に時間がかかって大変。個人的な問題であるが、そういったことに対する支援をしてくれる人がいると助かる。



## (2) 農作業のお手伝い

- ・現状、両親も含めた家族4人体制で仕事をしているが、両親もいつまで働けるかわからない状況なので、2人体制になった時、お手伝いしてくれる人がいれば安心する。

## (3) 買い物難民について

- ・今後、町内で買い物できるお店が無くなってしまったり、交通手段が無くなったりすると、買い物難民が問題になってくる。
- ・移動販売とかも最近では充実しているが、一週間ごとの注文では足りないこともあるし、買い物に行くということが重要だと思う。
- ・高齢者などを対象に買い物支援みたいな形で一緒に連れて行ってくれる人がいれば助かるのでは。
- ・75歳以上はハイヤーのチケットがあるので、買い物にも使っているようだ。

## ○情報発信

### (1) 情報発信の充実について

- ・サークルの活動募集や起業者の募集など、どちらも必要な人に情報が届いていないことがあるので、必要な人に届くような情報の発信が重要だと思う。
- ・情報発信を上手く運用できる人を招いて、訓子府町に興味を持ってくれた人を招待できればと思う。

## ◆Bグループ

### ○交通

#### (1) 高齢者

- ・移動手段、交通インフラが不安である。特に将来的に運転できなくなってきた時に不安がある。
- ・近所に元々免許をもっていない夫婦がおり、町の中心に住んでいると車がなくても生活できるのだと驚いた。
- ・運転できなくなった時、いつもとなると子どもにも頼みづらいのではないかと。

#### (2) 学生

- ・北見から訓子府高校に通学している学生の中で通学に不便な地域の学生のために町で出しているバスが、喜ばれていると聞く。
- ・訓子府から北見の高校に通う学生には北見バスがあるので、今は不便を感じていないのでは。

### ○仕事

- ・後継者不足、人手不足が心配である。自分自身も独身のため後継者はいない状況。作業の手伝いを頼んでも見つからないこともあるし、法人化した農家でもそこでずっと働いてくれる働き手もいない。
- ・これからは、いろいろな仕事で人手不足が進み、人員確保が大変な課題になる。
- ・訓子府に住んでもらうには、この町に仕事がないと。新たな仕事があればいいのでは。

### ○定住

- ・情報を発信してくれる人がいればいい。町のホームページは用事のある人は見るが、普段は見ない。
- ※行政が発信する情報ではなくて、実際に住んでいる人、体験した人が魅力を発信できるといい。
- ・定住してほしい。一度住んでもらえれば訓子府はとてもいい町だとわかってもらえると思う。
- ・少しでも町の良さを知ってもらうためにお試し移住などで体験する機会があるとよいのではないかと。
- ・訓子府には古民家を利用したお試し用の家などはないのか。
- ・移住、定住してもらうにも住宅が不足しているのではないかと。
- ・空き家バンクがあると思うが、登録はたくさんされているのか。  
⇒常にたくさん登録されているという状況ではない。
- ・公営住宅は時々募集されているがうまくいっているのか。新たに入居する人は転入してくる人なのか。  
⇒仕事などで町外から引っ越してくる方もいれば、農家の後継者が結婚して入居するケースもある。
- ・若い人に定住してもらうために「住宅」と「仕事」が必要。やはり、住宅が不足しているのでは。
- ・東川や中頓別は移住者が多いとのこと。お試し居住などをやっているのでは。
- ・足寄などでは、移住や起業が多い。起業して成功するには数年かかるが、成功した口コミが伝わって新たな人がまた集まるサイクルができていないのではないかと。
- ・移住して起業した人などが協力して、アイデアを共有しながら次に繋がっているのだと聞いた。
- ・体験した人や移住して魅力を感じている人がどんどん発信していってくると、それを見てまた人が呼び込めるのではないかと。
- ・行政は関わってなくて、活動に補助金をだしているだけである。

### ○コミュニティ

#### (1) 賑わい

- ・外部から人を呼び込むイベントや、一日訓子府で体験して過ごしてもらえるような企画があれば良い。



※今でもイベントはあるが、来た人が終わったら数時間で帰ってしまうので、朝来て農業体験をしたり、何かを作る体験をしたり、食事をとったりと一日中訓子府で過ごせるようなイベント。

- ・以前住んでいたところでは、小学生の子ども神輿があった。訓子府でもそういう催しがあると、賑わいになってよいのでは。
- ・今はコロナの影響でやっていないのかもしれないが、訓子府も昔は、地域でのお祭りがあった。
- ・何かをやるときのリーダー的な方が必要だと思うが、そういう方がいるかどうか。

## (2) 地域コミュニティ

- ・町内会の活動も顔見せ程度でもいいので、交流を継続したい。
- ・ご近所との交流が大切だと思う。ご近所で、電球取替や買い物とかちょっとした助け合いや目配り、地域での子供の見守りなど、高齢者の見守りなどができるともっと住みやすい町になると思う。
- ・近所の一人暮らしの高齢の方のことを気かけ、心配なことはヘルパーさんに伝えたりとしているが、本人からは「個人情報だから」と言われることもあった。それでも、何かあっては困ると思い、気にするようにしている。
- ・若い人がいない地域では災害などの時不安がある。家族内では、災害があつて避難する時には、近所の高齢の方を助けなければと話をしている。
- ・町内会の役員も若い人が少ないと、固定化されてしまう。
- ・役員不足は、人口減少が原因なのだろうか。
- ・人口減少だけではないと思う。時代とともに生活スタイルや考えも変わってきてしまった。若い人がいても町内会や役員には出てこないことも多くなっている。

## ◆Cグループ

### ○生活

#### (1) 高齢者の足の確保 買い物に困難、外出にも困難、病院

- ・タクシーやバスの運転手も高齢となっている現状を踏まえ、将来的には、運転する人がいなくなる。

#### (2) 見守り、同居人や身近な人に物事を頼めない。

- ・何でも屋やちょっとした作業（高齢者に頼めないことも若い人でやってくれる人がいれば）をやってくれる方が必要（それで生活するぐらいの収入になれば）

#### (3) コミュニケーションの取り方（世代間ギャップを埋めたい）

#### (4) 調査をして、現状を把握する人がいても良い。身内で把握できていない。

- ・自分でも把握してないことが本当は近い将来に必要なだったりするので、第三者的視点で俯瞰的に見て、困りごとを把握する必要がある。過去の自分と何ら変わっていないと思っている人がすごく多いと思う。だから、困りごとを聞いてもないと答える人が多い。

### ○自主活動

#### (1) サークル活動、老人クラブなくなった。

- ・人数も減っていて、活気が欲しい。立ち上げる人がいても良い。

### ○担い手、人手不足

#### (1) 担い手対策

- ・基幹産業の農業や商店街も含め、担い手対策として、外部人材でも必要。  
※中間層が抜けてしまっているため、林業においてもおじいちゃんが孫世代に仕事を教える大変さ。

#### (2) 婚活（結婚請負人）

- ・担い手も含め、人口減少や高齢化率が高くなると。このままでは困る。

### ○起業

#### (1) 町内で起業する人を募る

- ・空き店舗や空き家活用してもらおう。

### ○建物の利活用

#### (1) 施設や行事の集約化（複合施設としては）

- ・学校 CAFE や学芸会、文化祭、マルシェをくっつけて。児童館と会館の集約。

#### (2) 憩いの場(CAFE)確保

- ・みんなが集える場所がほしい。起業してくれれば。

まちづくり推進会議の資料は、役場庁舎(正面玄関横)および図書館に設置しています  
「まちづくり情報コーナー」で閲覧できます。

